

令和7年度アドバイザー会議 報告書

1 開催日時 令和7年5月15日(木) 14:00～16:00

2 開催場所 いわきアリオス GSユアさいわき小劇場

3 出席者

(1) アドバイザー

| 氏名 | 所属等 |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1 <small>イトウ ナオコ</small> 伊藤 直子 | アリオスコミュニティ代表 |
| 2 <small>オノ ジュンイチ</small> 小野 順一 | いわき商工会議所 中小企業振興グループ次長 |
| 3 <small>カタヤマ タイスケ</small> 片山 泰輔 | 青山学院大学 総合文化政策学部教授 |
| 4 <small>ツボイゲ エイコ</small> 坪池 栄子 | (株)文化科学研究所 研究プロデューサー |
| 5 <small>ナンブ ミツオ</small> 南部 充央 | 一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構代表理事 |
| 6 <small>キダ マサユキ</small> 木田 雅之 | アリオス前音響チーフ (株)シアターワークショップ |
| 7 <small>ホンダ ヒロユキ</small> 本田 浩之 | アリオス前施設管理課長 |

(2) アリオススタッフ

| 氏名 | 所属等 |
|----------------------------------|----------------------|
| 1 <small>スエ ジン</small> 諏江 仁 | 館長 |
| 2 <small>ナガノ タカヒト</small> 長野 隆人 | 副館長 |
| 3 <small>ヤマモト マサヒロ</small> 山本 正浩 | 経営総務課 課長 |
| 4 <small>ヤブキ シュウイチ</small> 矢吹 修一 | 企画協働課 課長 |
| 5 <small>ヒキタ サチコ</small> 疋田 幸子 | 施設運営課 課長 |
| 6 <small>サトウ ヨシノリ</small> 佐藤 仁宣 | 施設運営課 文化活動促進グループ チーフ |
| 7 <small>トミオカ トシコ</small> 富岡 都志子 | 経営総務課 総括主査 |

4 次第

(1) 開会

(2) 館長あいさつ

(3) アドバイザー及び事務局自己紹介

(4) 座長選出(座長:片山アドバイザー)

(5) 議事

○2026～2028年度 3カ年事業戦略策定に向けて

(6) その他

(7) 閉会

5 議事内容

「2026～2028年度 3カ年事業戦略策定に向けて」について事務局より、2023～2025年度3カ年事業戦略全体の振り返りを説明した後、2026～2028年度3カ年事業戦略(案)概要について説明し、アドバイザーの皆様より専門的知見からアドバイスを頂戴いたしました。自由意見交換を行い、いわきアリオスの今後のあり方について、ご意見等をいただきました。

○ アリオスアドバイザーのご意見等

【3カ年事業戦略案について】

・アリオスが今までやってきたことの中で、パートナーをたくさんつくってききていると思うんですけど、これがビジョン策定になると抜けて、ペーパーから抜けているので、意識を大きく変化した方がいいと思う。【坪池アドバイザー】

・広域的な中核館としての活動を活発化していくことを検討してほしい。【片山アドバイザー】

・創造育成というところに、何か新しいことを始めたい人の一步を踏み出せる仕組みをつくる。ということを書いてあるんですけども、これはいったい、どういう事業をお考えであるのかなというのをお聞かせいただけるのなら教えていただきたい【南部アドバイザー】

【今後の対応等について】

事例や成果を示し、今後の発展方向を明文化する。
広域連携の強化策については、共同事業や交流プログラムなど、隣接する市町村との意見交換などを検討。

【ネーミングライツについて】

・継続してもらうような関係づくりをしっかりとしていく必要がある。【坪池アドバイザー】

・地元の企業が応援してくれているんだということを、市民に理解してもらえる周知が必要である。

【片山アドバイザー】

・企業と協働するなり、巻き込むなり、より強固な関係をつくりにつながる事業構築を考えてほしい。

【片山アドバイザー】

【今後の対応等について】

事業チラシや広報誌、WEB・SNSなどで、企業名と貢献内容を紹介し、市民への広報・認知向上を図る。また、企業との信頼関係強化を目的に、定期的な意見交換会を検討。
契約継続や発展につながる共同プロジェクトを模索し、ネーミングライツ企業による市民向けイベントなどの協働実施を検討する。

※アルプスアルパインとは実際に動き始めており、今後、「アリオス オープンデイ」でのワークショップブースへの参加と公園にアルパインカスタムカーの展示及び出店をいただく計画があります。
また、8/1に開催予定の「アルプスアルパイン祭り」への演奏家派遣・制作業務をアリオスが担うこととなっています。

【自主事業について】

・アウトリーチ事業は、芸術を届けるだけでなく、感動体験を届けることで劇場に足を運んでもらうきっかけになるため、どういう目的で事業を行っているのかも外部へ発信していく取組みが重要であると思う。【片山アドバイザー】

・アウトリーチ事業の説明が分かりにくいので、こういうことをやって、どのような広がりがあったのかをわかりやすく作成した方が伝わりやすい。【木田アドバイザー】

・アウトリーチ事業の内容が見えてこないが、どのような効果がえられているのか。検証されているのか。【伊藤】

・もともとアウトリーチというのは、劇場に來れない人たちにも芸術を届けるという役割もありますけど、もう一つ、感動体験を届けることによって、劇場に足を運んでもらうきっかけになるというのも役割にあるのかなと思ったときに、そこへの鑑賞サービスというものもやっぱり考えていく必要があると思う。【南部アドバイザー】

・劇場に來た人たちがそのことを知っているんじゃなく、アリオスが外に向かって発信するものに対して、そういった取組みをやっている、なぜやっているかというのを発信していく取組みは非常に重要である。【南部アドバイザー】

・シンボル事業が一つあると、アリオスがどういう場所なのか伝わりやすい。※オープンデイ等【坪池アドバイザー】

・入口型事業の中から、いろいろな興味を持っていただけるので、企業協賛や市民ボランティアや関係団体等に協力してもらいながら、全館を使った取組みを考えてみてはどうか。【坪池アドバイザー】

・見える化していくことが必要である。【坪池アドバイザー】

・発信していくということもこの劇場ブランディングというところでは、必要になっていくと思う。

【片山アドバイザー】

【今後の対応等について】

アウトリーチ事業の情報整理をし、成果事例や参加者の声を取り入れた、感動体験としての価値を伝えられる資料等の作成を検討。

シンボル事業の設定

年1回、誰もが参加しやすく、アリオスの魅力を体感できる全館を活用した大型イベント(例:オープンデイ)を実施。また、協働型の全館事業を目指し、企業(ネーミングライツ企業含む)との協働や、市民ボランティア・文化団体と連携した企画も検討する。

見える化の推進

事業成果をまとめたビジュアルレポートの作成や、ホームページやSNS等での発信をし、ブランディングに活用する。

【部活動地域移行について】

・経済界でも部活動の地域移行に関して心配する声をいただいており、何か企業支援等ができないかとの声がある。今後、商工会議所とアリオスとの連携が図れないか考えていきたい。

【小野アドバイザー】

・廃校や部活動の廃止でたくさんの楽器が余っていることについて、把握されているのか。

【伊藤アドバイザー】

・部活動は、教育委員会としっかり連携しつつ状況を把握して、子供たちの環境を整えることは、地域にとっては本当に生命線なので、しっかりやっていく必要がある。

【片山アドバイザー】

・企業との連携をうまくやるってことが、キーワードになっていくと思う。

【片山アドバイザー】

【今後の対応等について】

部活動地域展開については、教育委員会が主として検討を行っているためアリオスが表立って運営を行うことは難しいが、商工会議所や教育委員会との情報共有体制を検討する。

6【その他】

・次期大規模改修に向けたスケジュールについて、教えてほしいです。【木田アドバイザー】

【回答】

大規模改修の目安は、建築されて25年と考えております。令和4年度末をもって、PFIの15年が終了しています。その後については、10年間の包括的民間委託での維持管理を行いますが、おおむね、大規模改修の7~8年前頃から、ある程度スケジュールを考えることから、そろそろ検討の時期に入ってきているのかなと考えます。当館の管理調整担当を含めて、どのようなスケジュールを行うか検討しなければならない時期かと思われまます。

・全国でやっていないんですけど、商工会議所さんと連携させていただくことによって、きちんと企業で雇用しているところに情報を発信していただくことによって、私たちが劇場に足を運んでいいんだとなっていく、こういう風な連携ももしかしたら、企業と劇場という部分での新しい連携として、考えられるのかなと思いました。【南部アドバイザー】

【回答】

企業を通じて正式に情報が発信されることで、「行ってもよい」「参加してもよい」という安心感につながるという点は、とても大切な視点だと思います。

商工会議所との連携は、企業と劇場を結ぶ新たな仕組みとして、文化芸術への社会参加を広げる可能性がある取り組みだと感じています。

・地域コーディネーターの発掘には、商工会議所も連携できる場所もあります。【小林アドバイザー】

【回答】

地域コーディネーターの発掘に関しては、商工会議所と連携できる可能性もあると考えており、今後の検討の中で活用を検討していきたいと思います。

・アクセシビリティに関して、公立の施設の調査をするとハードのバリアフリーが出ますけど、ソフト的な対応が遅れており、もう少し工夫の仕方があるんじゃないかと思います。【坪池アドバイザー】

【回答】

そのように感じております。言葉通り誰でも参加できる事業につきましても、検討してまいります。

・全国の様々な劇場にお伺いさせていただいて、小さな劇場ならではのスモールモデルを作るという取り組みをさせていただいているんですけど、その中で、いわきアリオスさんの取り組みも365日の中の1日だけ、その人たちが参加できる事業ではなくて、一つでも選択肢を増やそうということで、様々な事業に鑑賞サービスを実施していこうと挑んでいるということは、非常に評価させていただいております。このことが全国の様々な劇場のモデルになっていったらいいなと思っているの、そのことを発信していくのもこの劇場ブランディングというところでは、必要になっていくと思っています。【南部アドバイザー】

【回答】

当館における鑑賞サービスの取り組みが、参加の選択肢を広げる点で意義のあるものだという指摘は、今後の事業を考える上で大変参考になります。

こうした取り組みをどのように発信していくかについては、劇場のブランディングの観点も踏まえながら、今後検討してまいります。

・インバウンドを含めた観光と文化連携させた事業の企画をしていくと使える財源が結構ありますので、活用してみてもどうでしょうか。【片山アドバイザー】

【回答】

インバウンドを含めた観光と文化を連携させた事業については、活用可能な財源も含め、今後の事業検討の中で参考にさせていただきたいと考えています。

・故谷川俊太郎を偲ぶ事業を検討してみてください。【坪池アドバイザー】

【回答】

俊太郎さんの息子さんの谷川賢作さんのバンド、DiVaのライブを実施します。隣の市立美術館では、谷川俊太郎さんの絵本展を企画展としてやっており、美術館との連携事業です。